

平成 26 年度 高知県男女共同参画社会に関する県民意識調査

集計結果(速報) 要約版

1 調査の概要

高知県全域の満 20 歳以上の県民 2,000 人対象に実施。有効回収数：1,015 人(回収率 50.8%)

調査期間：平成 27 年 1 月 13 日～1 月 27 日

2 調査対象者の属性

○性別：男 478 人(47.1%)、女 529 人(52.1%)、無回答 8 人(0.8%)

○年齢層：20~30 歳代 255 人(25.1%)、40~60 歳代 663 人(65.3%)、70 歳以上 88 人(8.7%)、無回答 9 人(0.9%)

3 調査の結果

○男女平等に関する意識について (P5~P7)

- ・「社会全体」について 66%が男性優遇と回答 ※前回 64.9%
- ・男性優遇と回答した割合が最も多いのは「政治の場」で 71.4% ※前回 59.5%
- ・その他の分野では、「平等」と答えた割合がわずかではあるが増加

⇒男女平等に関する意識改革は十分に進んでいない

○男女の役割分担の理想と現実について (P8~P10)

- ・理想として最も多い回答が「共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担」の 44.5% ※前回 44.3%
- ・現実として最も多い回答が「共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担」の 40.7% ※前回 35.0%
- ・理想の実現に必要なこととして最も多い回答は「夫婦や家族間でコミュニケーションを増やすこと」59.5%※新設

⇒家事・育児の分担について理想と現実には隔たりがみられる

○女性の働き方の理想と現実について (P11~P12) ※新設

- ・最も多い回答は理想、現実ともに「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける」(理想:31.4%、現実:39.8%)
- ・次いで多い回答は理想が「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける」(18.8%)
に対し、現実には「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける」(16.4%)

⇒ライフステージや希望に応じて、柔軟な働き方が選択できる環境が求められている

○理想的な女性の働き方実現に必要なこととして最も多い回答 (P13~P15)

- ・家族や地域では「男性が家事・育児・介護などに参加すること」の 58.3%
- ・企業等職場では「仕事と家庭生活の両立に職場の理解が得られること」の 51.9%
- ・行政の取組では「保育サービスが充実すること」の 40.3%

⇒女性が働くための環境整備が求められている

○DV/セクハラについて (P16~P26)

- ・DV 行為の例示に対し「どんな場合も暴力に当たると思う」と回答した割合が前回より増えている
- ・DV 被害を「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合は 43.5% ※前回 51.4%
- ・DV 予防・防止の方策として最も多い回答が「身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る」(50.5%)、
次いで多い回答は「加害者への罰則の強化」(44.3%) ※新設
- ・セクハラ行為の例示に対し「セクハラだと思う」と回答した割合が前回より増えている

⇒DV やセクハラに対する意識は高まっている

○男女共同参画に関する言葉の認知度について (P27~P30)

- ・DV (86.8%)、セクハラ (88.9%) に比べ、ワークライフバランスの内容を知っていると答えた割合は 23.4%
と著しく低い。

⇒男女共同参画に関する意識の醸成は十分に進んでいない